

別紙3：構造計算チェックリスト

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考	
建築物の規模、構造種別と計算ルート	建築物名称	[ ]			x		
	建築場所	[ ]			x		
	用途	[ ]			x		
	階数	地上( )階・地下( )階・塔屋( )階			x		
	面積	建築面積( )m <sup>2</sup> ・延べ面積( )m <sup>2</sup>			x		
	工事種別	新築 増築 改築；増築計画 有 無			x		
	主要構造	X方向	RC造 ( )階～( )階			x	
			SRC造 ( )階～( )階				
			S造 ( )階～( )階				
			その他[ ] ( )階～( )階				
	Y方向	RC造 ( )階～( )階			x		
		SRC造 ( )階～( )階					
		S造 ( )階～( )階					
		その他[ ] ( )階～( )階					
	異種構造	無 有			x		
		[ ]造 X方向 Y方向 ( )階～( )階 [ ]造 X方向 Y方向 ( )階～( )階					
	構造形式	X方向	ラーメン構造 ( )階～( )階			x	
			耐力壁付ラーメン構造 ( )階～( )階				
			ブレース付きラーメン構造 ( )階～( )階				
			その他[ ] ( )階～( )階				
Y方向	ラーメン構造 ( )階～( )階			x			
	耐力壁付ラーメン構造 ( )階～( )階						
	ブレース付きラーメン構造 ( )階～( )階						
	その他[ ] ( )階～( )階						
建築物の高さ等	軒高さ( )m 建築物高さ( )m 最高部高さ( )m			x			
スパン数	X方向( )スパン・Y方向( )スパン			x			
最大スパン長	X方向( )m・Y方向( )m			x			
最大長さ	X方向( )m・Y方向( )m			x			
塔状比	4以下 4～6 6以上 [ ]						
基礎構造形式	布基礎 べた基礎 杭基礎 その他[ ]			x			
斜面地	斜面地でない 斜面地である			x			
計算ルート	X方向 ルート( ) 理由[ ]			x			
	Y方向 ルート( ) 理由[ ]			x			
使用プログラムの名称	[ ] 大臣認定****-( ) 性能評価****-( )			x			
追加項目							
建築物の形状	X・Yフレームは直交しているか	直交している 直交していない(最大90± 度)			x		
	各フレームは平行か	平行している 平行していない(最大 度)			x		
	柱は鉛直か	鉛直 傾斜(最大 度) 中折れ(最大 度)					
	柱抜け	無 有[ ]					
	梁の傾斜	無 有(最大 度) 中折れ(最大 度)					
	梁抜け	無 有[ ]					
	柱梁の心ずれ	無 有[ ]					
	4本柱など	いいえ はい[ ]					
	不整形	いいえ はい[ ]					
	セツバック	無 有[ ]			x		
	ビーム形式	無 有[ ]					
	ステップ形式	無 有[ ]					
	床の形状	三角形 荷重伝達方向{ 各辺 1方向 その他[ ] }			x		
		四角形 荷重伝達方向{ 2方向 1方向 その他[ ] }					
		その他 荷重伝達方向[ ]					
	床の吹抜け部分	無 有[ ]					
		吹抜けに接続する耐震壁 無 有[ ] 吹抜けに接続する跳ね出し 無 有[ ]					
多剛床	多剛床でない 多剛床である(注：多剛床とは、ツインタワー等をいう。)			x			
片土圧	片土圧でない 片土圧である			x			
部分地下	無 有[ ]						
外部階段・フレーム外壁	無 有[ ]						
インターンジョイント	無 有 インターンジョイントの幅 = ( ) mm		H/100				
跳ね出しスラブ	無 有 跳ね出し長さは ( ) mm						
追加項目							
使用材料	コンクリートの種別強度	普通コンクリート Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]	12N/mm <sup>2</sup> ～ 60N/mm <sup>2</sup>	12N/mm <sup>2</sup> ～ 60N/mm <sup>2</sup>	x		
		普通コンクリート Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]					
		普通コンクリート Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]					
		普通コンクリート Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]					
		普通コンクリート Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]					
	軽量コンクリート( ) Fc=( )N/mm <sup>2</sup> 使用場所 [ ]	9N/mm <sup>2</sup> ～ 36N/mm <sup>2</sup>	9N/mm <sup>2</sup> ～ 36N/mm <sup>2</sup>	x			
	鉄筋の種別	SR( ) 使用場所 [ ] SD( ) 使用場所 [ ]			x		

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考
		SD( ) 使用場所 [ ] SD( ) 使用場所 [ ]				
	高強度せん断補強筋	無 有 [ ]			x	
	鉄骨の鋼種	SN,SS,SM( ) 使用場所 [ ] SN,SS,SM( ) 使用場所 [ ] SN,SS,SM( ) 使用場所 [ ]			x	
	高力ボルト	無 有 [ ]			x	
	その他の材料	無 有 [ ]			x	
	材料のヤング係数・せん断剛性係数の直接入力	無 有 [ ]				
	材料の許容応力度・材料強度の直接入力	無 有 [ ]				
	追加項目					
部材形状	柱	R C造 {形状: 長方形 円形 その他[ ]} S R C造 R C部 {形状: 長方形 円形 その他[ ]} S R C造 S部 {形状: H形 角形 円形 その他[ ]} S造 {形状: H形 角形 円形 その他[ ]} その他[ ]			x	
	梁	R C造 {形状: 長方形 その他[ ]} S R C造 {形状: 長方形 その他[ ]} S造 {形状: H形 その他[ ]} その他[ ]			x	
	部材の変断面	無 有 { 柱 梁 その他[ ] }			x	
	梁の貫通孔	無 有 [ ]				
	耐力壁	無 有 { R C造 その他[ ] }			x	
		R C板厚 = ( ) cm	12		x	
	ブレース	無 有 { R C造 S造 その他[ ] }			x	
		断面形状 長方形 H形 角形 円形 その他[ ]			x	
		組み方 X形 /形 K形 その他[ ]			x	
		R C非構造部材の壁 無 有 { 構造規程の タイプ A タイプ B タイプ C }			x	
		R C非構造部材の壁の開口 無 有 { スリット 無 有 [ ] }			x	
		部材断面性能の直接入力 無 有 [ ]				
		追加項目				
荷重	固定荷重	特記事項のみ記入 [ ]				
	積載荷重	柱軸力の低減 無 有 [ ]				
		特記事項のみ記入 [ ]				
	地震荷重	地域係数 Z=( ) 法令 その他[ ]	法令値	1.0	x	
		一次固有周期 X方向T=( ) 秒 略算 { h=( ), =( ) } その他[ ]		0.0	x	
		Y方向T=( ) 秒 略算 { h=( ), =( ) } その他[ ]		0.0	x	
		地盤種別 第1種 第2種 第3種 地盤種別の判定根拠 地層構造 常時微動測定 せん断波速度測定 その他[ ]			x	
		地盤種別によるTc=( ) 秒 法令 その他	0.4	0.6	x	
		振動特性係数 X方向Rt=( ) 法令 その他[ ]	法令値			
		Y方向Rt=( ) 法令 その他[ ]	法令値			
		地震力による応力の割増し係数=( )	1.0	1.0	x	
		X方向Ai=最上階( ) 告示式 SRSS その他[ ]	1.0			
		Y方向Ai=最上階( ) 告示式 SRSS その他[ ]	1.0			
		X方向C0=1次( )、2次( )	0.2、1.0	0.2、1.0	x	
		Y方向C0=1次( )、2次( )	0.2、1.0	0.2、1.0	x	
		加力方向 X方向 正負両方向 片方向[ ] Y方向 正負両方向 片方向[ ]				
		加力角度 XY方向 XY方向以外( ) 度				
		地震時土圧の考慮 無 有			x	
		地下階の震度 法令 その他			x	
		塔屋階の地震力 局部震度( ) Ai( )			x	
	構面毎の地震力指定 無 有 [ ]	法令値				
風荷重	考慮する 考慮しない[ ] 地震荷重より下回るの考慮しない					
	基準風速V0=( )	30	30	x		
	地表面粗度区分( )	, , ,		x		
	風力係数 法令 直接入力					
	風荷重の直接入力 無 有 [ ]					

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考	
	積雪荷重	風荷重の低減 無 有( )	1/2まで	1.0			
		多雪区域でない 多雪区域				×	
		長期( )cm、( )N/m <sup>2</sup> /cm 短期( )cm、( )N/m <sup>2</sup> /cm	単位荷重 20		20		×
		積雪荷重の低減 無 有[ ]					×
	特殊荷重・追加荷重	多雪地域の応力の組合せにおける雪荷重による力の係数 = 長期( ) 短期( ) 法令 その他[ ]	0.7, 0.35	0.7, 0.35			×
		土圧 水圧 広告物 水槽 E V 塔屋 庇・バルコニー その他[ ]					
	追加項目						
	応力計算	解析法	平面フレーム解析 疑似立体解析 立体解析 その他[ ]				×
			剛床仮定 する しない{ 多剛床 部分剛床 その他[ ] }				×
			構造階高と真の階高の違い 無 有[ ]				
直交フレームの影響を考慮 無 有[ ]							
柱のモデル化		軸変形を考慮 無 有					×
		せん断変形を考慮 無 有					×
		軸剛性倍率の入力 無 有( )					
		曲げ剛性倍率の入力 無 有( )					
		せん断剛性倍率の入力 無 有( )					
		形状係数の入力 無 有( )					
		剛接以外の材端条件 無 有 [ ]					
梁のモデル化		軸変形を考慮 無 有					×
		せん断変形を考慮 無 有					
		剛性に床スラブの影響を考慮 無 RC規準による有効幅を考慮 剛性増大率{ 両側スラブ = ( ), 片側スラブ = ( ) } その他[ ]					×
		軸剛性倍率の入力 無 有( )					
		曲げ剛性倍率の入力 無 有( )					
		せん断剛性倍率の入力 無 有( )					
		形状係数の入力 無 有( )					
S造アレースのモデル化		剛接以外の材端条件 無 有 [ ]					
		曲げ変形を考慮 無 有					×
		せん断変形を考慮 無 有					×
		軸剛性倍率の入力 無 有( )					
耐力壁のモデル化		ピン接合以外の材端条件 無 有 [ ]					
		ブレース置換 壁柱置換 その他 [ ]					×
		軸剛性倍率の入力 無 有( )					
		曲げ剛性倍率の入力 無 有( )					
		せん断剛性倍率の入力 無 有( )					
		形状係数の入力 無 有( )					
		開口付耐震壁 無 有 { 開口周比 = ( ) }	0.4				×
複数開口の扱い 無 有 { 包絡した開口として扱う 開口面積の和として扱う その他 [ ] }							
柱梁接合部のモデル化	無視 剛域でモデル化 せん断変形考慮					×	
	剛域の扱い 剛域長の入り長さ Dの係数 = ( )	0.25程度		0.25		×	
	部材長に対する剛域長の最大値の比 = ( )	1.0		1.0		×	
袖壁	柱の剛性に考慮 無 有 { 精算法 略算法 }					×	
	柱の耐力に考慮 無 有					×	
	有効断面の低減率 = ( )					×	
腰壁、たれ壁	梁の剛性に考慮 無 有 { 精算法 略算法 }					×	
	梁の耐力に考慮 無 有					×	
	有効断面の低減率 = ( )					×	
方立て壁	偏心率、剛性率に考慮 無 有					×	
フレーム外の非構造部材の壁	偏心率、剛性率に考慮 無 有					×	
計算上のダミー部材	無 有 [ ]						
柱脚の半固定支点	無 有 ばね定数K=( )					×	
杭の曲げ戻し	曲げ戻しを考慮 無 有 [ ]					×	
基礎の浮き上がり	浮き上がりを考慮 無 有 [ ]					×	
部材のねじれ	ねじれを考慮 無 有 [ ]						
計算結果	最大層間変形角 = ( ) X方向, ( ) Y方向 制限値を緩和する場合の理由 [ ]	1/200		1/200		×	
	最大の偏心率 = ( ) その階 ( 階 )	0.15 (1/2)				×	
	最小の剛性率 = ( ) その階 ( 階 )	0.6 (1/2)				×	
	各層の柱の層せん断力の分担率 最大( )% 最小( )%					×	
追加項目							
断面計算	断面検定しない部材の指定	無 有 [ ]					

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考
	断面検定用の応力割増し係数	無 有 [ ]				
	フェイスモーメントの採用	鉛直荷重 フェイス 節点 その他 [ ] 水平荷重 フェイス 節点 その他 [ ]			x	
(1) RC造 (部材)	断面計算法	多段配筋を考慮 無 有			x	
	柱	設計用せん断力の取り方 Qd1=Q0+ My/h ( = ) Qd2=QL+nQe ( n= ) Min { Qd1( = ), Qd2 ( n= ) }	: 1.0 n : 1.5 (l-t1), 2.0 (l-t2-1, 2-2)	: 1.0 n : 1.5 (l-t1), 2.0 (l-t2-1, 2-2)	x	
		Myの算定 ・ 法令 RC規準 その他 [ ] ・ 鉄筋の基準強度割増し 無 有 割増し率 = ( ) ・ 二軸曲げを考慮した検定を する しない ・ 二軸せん断を考慮した検定を する しない			x	
		・ l-t2-3で、せん断終局強度式の許容せん断耐力を使用 有 無			x	
	梁	設計用せん断力の取り方 Qd1=Q0+ My/l ( = ) Qd2=QL+nQe ( n= ) Min { Qd1( = ), Qd2 ( n= ) }	: 1.0 n : 1.5 (l-t1), 2.0 (l-t2-1, 2-2)	=1.0, n=1.5 (l-t1), n=2.0 (l-t2-1, 2-2)	x	
		Myの算定 ・ 法令 RC規準 その他 [ ] ・ スラブ筋の考慮 無 有 ・ 鉄筋の基準強度割増し 無 有 割増し率 = ( ) ・ 主筋の付着検討を する しない			x	
		・ l-t2-3で、せん断終局強度式の許容せん断耐力を使用 無 有			x	
	耐力壁	設計用せん断力 ( nQd) の割増し係数 n = ( ) 許容せん断力 QA1= t l f s QA2= ( Qw+ Qc ) Max { QA1, QA2 }	2.0	2.0	x	
		開口低減率を考慮 しない する = ( )			x	
		最大せん断応力度 max = ( )			x	
		鉛直荷重の処理 柱に負担させる 壁に負担させる				
	開口の有無	耐震壁に開口がない 耐震壁に開口がある				
	開口補強筋の検討	プログラムで検討 プログラムで検討を行わない				
	基礎	水平力の処理法 接地圧 側面土圧 杭の水平抵抗 その他 [ ] 基礎の偏心 無 有 [ ]				
	鉄筋量 (省略可)	梁Pt 最大 ( ) 最小 ( ) 又は長期応力の4/3による	0.4%	x		
梁Pw 最大 ( ) 最小 ( )		0.2%	x			
柱Pw 最大 ( ) 最小 ( )		0.2%	x			
柱Pg 最大 ( ) 最小 ( )		0.8%	x			
壁Ps 最大 ( ) 最小 ( )		1.2%	x			
その他		柱梁接合部の検定 有 無 梁のたわみの検討 有 無 梁のひび割れの検討 有 無			x	
(2) SRC (部材)	断面計算法	単純累加強度式 一般化累加強度式 その他 [ ]			x	
		多段配筋を考慮 無 有			x	
		鉄骨ウェブの断面係数への考慮 無 有			x	
	S部分ボルト孔や断面欠損の考慮	無 有 { 引張側のみ 圧縮、引張両側 }			x	
	柱	RC部分の設計用せん断力 学会規準 1) $r Q_{D1} = r M_0 / M^* Q_0 + r M_y / l$ ( = ) 2) $r Q_{D2} = r M_0 / M^* ( Q_0 + n Q_E )$ ( n = ) 3) $\text{Min} \{ r Q_{D1} ( = ), r Q_{D2} ( n = ) \}$ 4) $r M D / M^* Q_0$ 法令 5) $r Q_{D5} = r Q_L + r M_y / l$ ( = ) 6) $r Q_{D6} = n ( Q_S - S Q_0 )$ ( n = ) 7) $\text{Min} \{ Q_{D5} ( = ), Q_{D6} ( n = ) \}$			x	
		S部分設計用せん断力 法令 SRC規準			x	
		二軸曲げを考慮した検定を しない する [ ] 二軸せん断を考慮した検定を しない する [ ]				
梁	RCの設計用せん断力 SRC規準 1) $r Q_{D1} = r M_0 / M^* Q_0 + r M_y / l$ ( = )			x		

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考
		2) $r_{Q_{D2}} = r_{M_0} / M^* (Q_D + nQ_E)$ (n= ) 3) $\text{Min} \{ r_{Q_{D1}} (= ), r_{Q_{D2}} (n= ) \}$ 4) $r_{M_0} / M^* Q_D$ 法令 5) $r_{Q_{D5}} = r_{Q_L} + r_{My} / l$ ( = ) 6) $r_{Q_{D6}} = n(Q_{S-S} Q_D)$ (n= ) 7) $\text{Min} \{ Q_{D5} (= ), Q_{D6} (n= ) \}$				
		S部分設計用せん断力 法令 SRC規準			×	
		継手部の短期設計曲げモーメント・設計せん断力(SRC規準) 梁の短期許容曲げ耐力を考慮しない式 梁の短期許容曲げ耐力を考慮した式			×	
	耐力壁	せん断耐力 SRC規準による $w_A$ を考慮した式 SRC規準による $w_A$ を無視した式 法令			×	
		開口低減率を考慮 しない する (= ( ))			×	
		鉛直荷重の処理 柱に負担させる 壁に負担させる			×	
		最大せん断応力度 $\text{max} = ( )$			×	
	柱脚	埋込み型 非埋込み その他[ ]				
	鉄筋量 (省略可)	梁 $P_w$ 最大( ) 最小( )	0.1%		×	
		柱 $P_w$ 最大( ) 最小( )	0.1%		×	
		柱 $P_g$ 最大( ) 最小( )	0.8%		×	
		壁 $P_s$ 最大( ) 最小( )			×	
	その他	柱梁接合部の検定 有 無[ ]				
		梁のたわみの検討 有 無[ ]				
	追加項目					
	断面計算 (3) S造 (部材)	S部分ボルト孔や断面欠損の考慮	無 有 { 引張側のみ 圧縮、引張両側 }		×	
		鉄骨ウェブの断面係数への考慮	無 有 [ ]		×	
		鉄骨ウェブにせん断力と曲げの組合せ考慮	有 無 [ ]		×	
		合成ばりの有無とタイプ	無 有 { 完全合成ばり 不完全合成ばり }		×	
		部材に2軸応力考慮	無 有 [ ]			
		柱の座屈長	階高 h 塑性設計指針 その他( )h		×	
		幅厚比の検討	学会 法令 その他[ ]		×	
		継手部の検討	存在応力度設計 (母材の断面に基づく)全強設計 その他[ ]		×	
		継手部の保有耐力接合の検討	する しない[ ]			
		仕口部の保有耐力接合の検討	する しない[ ]			
		保有耐力横補剛の検討	する しない[ ]			
		柱脚の形式	埋込型 露出型 根巻 その他[ ]		×	
		露出柱脚	固定度の適切な評価と塑性変形能力の確保 法令 その他[ ]		×	
		冷間成形角形鋼管使用時の応力割増しと柱梁耐力比	センターマニュアル その他[ ]			
		その他	梁のたわみの検討 有 無[ ]			
	追加項目					
	保有水平耐力	解析モデル 平面フレームモデル 疑似立体モデル 立体モデル			×	
		非線形解析法 荷重増分解析 変位増分解析 節点振り分け法 節点モーメントの振り分け方 [ ] 層モーメント法 節点モーメントの振り分け方 [ ] その他 [ ]			×	
		増分解析の場合、打ち切り条件 メカニズムに達したとき [ ] 層間変形角がある値に達したとき [ ] せん断破壊が生じたとき [ ] その他 [ ]			×	
		増分解析の場合、降伏後剛性低下率 ( )			×	
		外力分布 $A_i$ 分布 その他[ ]				
		材料強度の割増し 鉄筋・鉄骨の材料強度割増し 無 有 (割増し率 = )	1.1		×	
		柱のモデル化 1次設計と同じ その他[ ]				
		せん断剛性係数の入力 無 有 ( )				
		形状係数の入力 無 有 ( )				

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考		
	梁のモデル化	材端のモデル その他[ ] 1次設計と同じ その他[ ]	降伏ヒンジ	剛塑性回転ばね		x		
		せん断剛性係率の入力 形状係数の入力	無 有( )	有( )				
	S造ブレースのモデル化	材端のモデル その他[ ] 1次設計と同じ その他[ ]	降伏ヒンジ	剛塑性回転ばね		x		
		材端のモデル その他[ ]	降伏ヒンジ	剛塑性回転ばね		x		
	耐力壁のモデル化	せん断ブレース置換 曲げせん断剛梁トラス置換(梅村式モデル等) 曲げ線材置換 その他[ ]	曲げせん断トラス置換			x		
		腰壁、たれ壁、そで壁 フレーム外の壁	梁または柱のモデル化で考慮 しない する	しない する		x		
	剛域	1次設計と同じ その他[ ]						
	塑性ヒンジ発生位置	節点 部材フェイス その他[ ]				x		
	ダミー部材	無 有[ ]						
	基礎の鉛直バネ、水平バネ、回転バネ	無 有[ ]						
	脆性部材	脆性部材 脆性部材がある場合の処置 脆性部材が脆性破壊した時点の耐力を保有水平耐力とする 脆性部材を無視して計算を続行し、崩壊メカニズムを形成した時の耐力から脆性破壊した部材の耐力を低減して保有水平耐力とする。 (脆性部材が負担していた鉛直力を代わって支持できる部材があることの確認 する しない)	無 有			x		
		せん断破壊部材	せん断破壊判定用割増し係数 = ( )			x		
	崩壊形の確認	無 有(全体崩壊 層崩壊 局部崩壊)				x		
	基礎の浮き上がりの確認	浮き上がり 無 有(直交ばりの効果を考慮した隣接架構の浮き上がりの確認 無 有)				x		
	必要保有耐力	形状係数( ) ・ 偏心率による割増し率Fe ( ) ・ 剛性率による割増し率Fs ( ) ・ Fesの直接入力 無 有				x		
		構造特性係数( ) ・ FDとWD部材の有無 無 有 ・ 柱梁接合部破壊の有無 無 有 ・ 鉄筋定着破壊の有無 無 有				x		
	追加項目	破壊モード判定 ・ 梁・柱の種別時の判定用応力割増し率 = ( ) ・ せん断破壊判定用応力割増し率 = ( )				x		
	保有水平耐力(1) RC造(部材)	柱	曲げ耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ そで壁の考慮 無 有				x	
			せん断耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ そで壁の考慮 無 有				x	
梁		曲げ耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ 腰壁やたれ壁の考慮 無 有 ・ スラブ筋の考慮 無 有[D 本、D 本]				x		
		せん断耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ 腰壁やたれ壁の考慮 無 有				x		
耐力壁		曲げ耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ]				x		
		せん断耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ]				x		
柱梁接合部		せん断耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ]				x		
追加項目								
保有水平耐力(2) SRC造(部材)	柱	曲げ耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ そで壁の耐力を累加 無 有				x		
		せん断耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ そで壁の耐力を累加 無 有				x		
	梁	曲げ耐力 ・ 準拠した式 法令 その他[ ] ・ 腰壁やたれ壁の耐力の累加 無 有				x		
		せん断耐力				x		

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。

章	項目	記入欄	数値の制限	標準的なデフォルト値	計算書対応頁	備考	
	耐力壁	・準拠した式 法令 その他 [ ] ・腰壁やたれ壁の耐力を累加 無 有					
		曲げ耐力 ・準拠した式 法令 その他 [ ]				×	
		せん断耐力 ・準拠した式 法令 その他 [ ]					×
		柱梁接合部 せん断耐力 ・準拠した式 法令 その他 [ ]					×
		追加項目					
保有水平耐力(3)S造	柱	FD・WD部材の有無 無 有 [ ]				×	
	梁	FD・WD部材の有無 無 有 [ ]				×	
	柱脚	柱部材の下端にピンジの形成 無 有 [ ] 柱脚部の降伏 無 有 [ ]				×	
	接合部パネルの検定	する しない [ ]					
	追加項目						
その他構造細則	柱の最小径と支点間距離の比	RC:1/15 SRC:1/30以下の部材 無 有 [ ]					
	柱の帯筋間隔(柱端より柱最大径の1.5倍の範囲)	9 , D10で10cm以上, D13以上で20cmを超えるもの 無 有 [ ]					
	梁のあばら筋間隔	梁せいの1/2以上, 9 , D10の場合25cm超またはD13以上の場合45cm超 有 無 [ ]					
	三段筋以上の梁があるか	無 有 [ ]				×	
	梁, 柱の鉄筋間隔	公称径の2.5倍以下, または粗骨材最大寸法の1.25倍 + 鉄筋最外径以下となっているもの 無 有 [ ]					
	S造接合部の最小ファスナー本数	2本未満 無 有 [ ]					
	S造プレースの破断形式	プレース軸部破断 ファスナーの端あき破断 溶接部破断 プレース接合ファスナー破断 ガセットプレート破断 その他					×
	RC造の柱, 梁, 耐力壁の鉄筋のかぶり厚さ	最小 ( ) cm	法令値				×
	SRC造の部材の鉄骨のかぶり厚さ	最小 ( ) cm	法令値				×
	耐震壁の付帯ラメンの断面積	RC規準による その他 [ ]					
	継手ランク	[ ]					
	定着の検討	完了 未了 その他 [ ]					
	追加項目						
X 別途計算部分	スラブの設計	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	小梁の設計・片持梁	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	どうぶち	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	屋上突出部の設計	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	耐震壁の設計	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	柱脚の設計	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	基礎及び杭の設計	プログラムの使用 無 有 [ ] 杭の偏心の考慮 しない する [ ]					×
	階段の設計	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	FEM解析	プログラムの使用 無 有 [ ]					×
	追加項目						
XI プログラム出力の所見	注意メッセージ	無 有 有りの場合、所見 [ ]					
	警告メッセージ	無 有 有りの場合、所見 [ ]					
	プログラム出力に対する所見	異常値がないことの確認 無 有 [ ]					
	適用範囲外メッセージ	無 有					×
追加項目							
X その他	略伏図、略軸組図	伏図、軸組図との照合 有 無					×
	構造計画とモデル化の対応	している していない [ ]					×
	追加項目						

注)

1. 印はチェックを記入、( )は数値を記入、[ ]はコメントを記入する。
2. 網掛け部は、計算結果の出力を見て記入する。
3. 計算書対応頁の欄が の項目は、ゴシック文字の選択肢について、[ ]内または別資料で設定根拠の説明が必要であることを示す。
4. 制限値以外の数値を用いた場合は、プログラムの適用範囲外とする。